

隨泉寺寺報

平成 25 年 (2013 年) 8 月号 第 5 1 6 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

お盆会法座

講師 浄土寺住職 朝枝泰善師

講題 『贈り物のころろ』

■盆燈籠 (ぼんどうろう) ~縁のある人々を偲ぶ~

浄土真宗本願寺派安芸教区教務所発行の「仏事あれこれ小百科」では、「江戸時代の広島城下、娘を亡くした父親の話に由来するようです。亡くなった娘のために石灯籠を立ててやりたいと思っても、そのお金がなく、それで竹をそいで紙を貼り、それを灯籠として供えたことにはじまり、今では安芸地方の夏の風物詩となっています。」とされています。

江戸時代後期から明治期にかけて、広島市街の寺院を中心にかなり広く定着しました。大正時代になると夜店で燈籠を売るようになり、盆燈籠売りは普段はそれぞれの商売をしていて、盆前になると盆燈籠売りに変わったと言われています。当時の盆燈籠は、没年に関わらず白いものが一般的でした。白い燈籠が初盆のために用いられ、それ以外は6色のカラフルなものになるのは昭和40年代以降のことです。33年前、私が隨泉寺に来てはじめて迎えたお盆はびっくりしました。今では安芸地方の独特なものとして、伝えていければいいなと思っています。

8月の法座予定

- 8月 2日 (金) 本部役員会
- 8月 11日 (日) 掃除 中須賀・コモンライフ
- 8月 17日 (土) 朝席午前10時より お盆法座 おとき
- 8月 17日 (土) 昼席午後1時半より 初盆追悼法要
- 9月 2日 (月) 午後5時より 門信徒会本部役員会

☆ ☆平成 25 年初盆を迎えられる方

| 俗名 | 法名 | 命日 | 行年 | 地区 |
|--------|---------|-------------------|-------|-------|
| 大村 千鶴子 | 釋清真 | 平成 24 年 8 月 1 日 | 84 才 | 望ヶ丘団地 |
| 林 義春 | 釋善念 | 平成 24 年 8 月 3 日 | 76 才 | 平原上 1 |
| 石本 清 | 釋清浄 | 平成 24 年 8 月 6 日 | 91 才 | 高部 |
| 二野宮 孝 | 釋至孝 | 平成 24 年 8 月 22 日 | 55 才 | 出口・宮原 |
| 満岡 英明 | 釋宝英 | 平成 24 年 8 月 25 日 | 84 才 | 中須賀 |
| 中本 ヨシコ | 釋好華 | 平成 24 年 9 月 23 日 | 100 才 | 他所 |
| 原 京子 | 釋澄清 | 平成 24 年 10 月 9 日 | 58 才 | 他所 |
| 向井 良信 | 釋賢良 | 平成 24 年 10 月 29 日 | 83 才 | 他所 |
| 奥田 浪子 | 釋浄浪 | 平成 24 年 10 月 31 日 | 87 才 | 鴨の巢 |
| 藤原 清久 | 釋清浄 | 平成 24 年 11 月 4 日 | 69 才 | 出宮 |
| 秦 一男 | 釋一真 | 平成 24 年 11 月 5 日 | 84 才 | 平原東 |
| 要田 勇 | 釋勇立 | 平成 24 年 11 月 7 日 | 72 才 | 他所 |
| 早稲田 誠 | 釋実誠 | 平成 24 年 11 月 16 日 | 96 才 | 望ヶ丘 |
| 岡田 梅男 | 釋華巖 | 平成 24 年 11 月 23 日 | 74 才 | 平原上 2 |
| 吉岡 章 | 釋浄章 | 平成 24 年 11 月 30 日 | 84 才 | 平原東 |
| 平原 千鶴子 | 浄心院釋尼好慶 | 平成 24 年 12 月 4 日 | 92 才 | 平原東 |
| 川本 貢 | 釋清貢 | 平成 24 年 12 月 23 日 | 85 才 | 平原上 1 |
| 太尾田 勝 | 釋正教 | 平成 24 年 12 月 31 日 | 80 才 | 桑原 |
| 川寄 末男 | 釋末灯 | 平成 25 年 1 月 5 日 | 66 才 | 平原西 |
| 林 倭文子 | 釋浄心 | 平成 25 年 1 月 28 日 | 89 才 | 平原上 1 |
| 倉田 良枝 | 釋賢良 | 平成 25 年 1 月 31 日 | 69 才 | 鴨の巢 |
| 日高 義夫 | 釋義順 | 平成 25 年 2 月 2 日 | 92 才 | 瀬野川団地 |
| 佐々木 正義 | 釋正命 | 平成 25 年 2 月 7 日 | 70 才 | 平原東 |
| 今岡 妙子 | 釋念生 | 平成 25 年 2 月 13 日 | 83 才 | 桑原 |
| 小平 恵子 | 釋浄恵 | 平成 25 年 3 月 22 日 | 46 才 | 平原西 |
| 菅田 葉子 | 釋清葉 | 平成 25 年 4 月 1 日 | 92 才 | 他所 |
| 忠末 ミツ子 | 釋浄満 | 平成 25 年 5 月 27 日 | 82 才 | 他所 |
| 楨野 佳道 | 釋正道 | 平成 25 年 6 月 3 日 | 65 才 | 井原 |
| 乗松 幸男 | 釋実道 | 平成 25 年 6 月 27 日 | 85 才 | 桑原 |
| 幸村 賢 | 釋義弘 | 平成 25 年 6 月 29 日 | 85 才 | 長者原東 |
| 中川 茂 | 多聞院釋勝圓 | 平成 25 年 7 月 5 日 | 101 才 | 長者原西 |
| 林 憲治 | 釋浄賢 | 平成 25 年 7 月 11 日 | 80 才 | 平原東 |
| 大木 ハル子 | 釋深楽 | 平成 25 年 7 月 18 日 | 97 才 | 宮原 |
| 為尾 フヂエ | 釋清行 | 平成 25 年 7 月 18 日 | 85 才 | 宮原 |
| 長岡 トヲヨ | 釋尼蓮誓 | 平成 25 年 7 月 23 日 | 99 才 | 平原上 1 |



去年 (平成 24 年 8 月 1 日) から今年 (平成 25 年 7 月 31 日) までにお浄土に還られた方々です。いずれも懐かしい人々です。初盆追悼法要を 8 月 17 日午後 1 時半より隨泉寺本堂で勤めます。誘い合わせてお参り下さい。

8月

「人生は如来にあわせていただく道場である」 (梯 実円)

私達は、毎日、様々の事柄に出会います。よく似たこともあります。初めて出会うことがらも、少なくありません。喩えると、応用問題の連続です。それも、答えが一つあるのか、二つあるのか、さらには、答えがないのか、という問題です。

ですから、理屈は っても、相手に納得してもらえないこと、我が身が納得しないこともあります。

この世の、人間の考えだけで解決することはまことにむずかしいことです。そこに、人間の計らいを超えた広い世界、阿弥陀如来さまのお慈悲が働いて下さることに気付くとき、難しいながらも、力強く生きる道が開かれます。

この世のことに一生懸命励むほど、阿弥陀如来さまのお慈悲が有り難く受け取れるのではないのでしょうか。何時でも、何処でも、私を支えてくださるのです。

お念仏申しつつ、阿弥陀如来さまに、励まされ、あるいは諫められて、共に、歩ませていただきましょう。

浄土真宗本願寺派門主 大谷光真著「あけぼのすぎ」--浄土真宗一口法話--

「いつも優しくかった父を偲んで…」

温厚な父でした。国家公務員として仕事に励んだのちは親 の会社を手伝い、平成七年まで働きました。

退職後は、時おり母と仲良く旅行に出かけ、各地の美しい風景や味覚を堪能していたものです。父は、孫六人とひ孫四人に恵まれたことを何より喜び、皆とのふれあいを楽しんでおりました。

父 幸男は平成二十五年六月二十七日、八十四年の生涯をとじました。体があまり丈夫でなく、晩年は療養生活を送っていた父。十日ほど前に入院し、このたびの れを迎えました。

寂しさはつのですが、これまでずっと家族に深い愛情を注いでくれた父に

「ありがとう」と伝え、温かく見送ります。

生前お世話になりました多くの皆さまに、心より感謝申し上げます。

平成25年6月 乗松 宏・満寿子

法名 釋義弘 俗名 乗松幸男 平成25年6月27日往生 行年84歳



初参式

7月14日午後1時より 初参式を勤めました。



今年は 所弘康・友望さんの長女《 所未 》さんと隨泉寺の若院 鎌田智也・弥名さんの長男《鎌田 晃樹》くんの二人の初参式を行いました。お勤めの後、住職からお祝いの言葉と式章とお念珠の授与があり、その後皆さん



と記念 真を撮りました。

浄土真宗の門信徒のご家庭に生まれた赤ちゃんが、初めてお寺にお参りする「初参式」は、尊いご縁によって恵まれた新しいのちを、阿弥陀如来さまの御前にて、ご家族、また縁ある方々そろってお祝いし、感謝する式です。

また「我が子に何事であろうとも、私はこの子の親として、この子に寄り添い続けます。この子の人生にどんなことがあっても、私はこの子の親であり続けます」と、アミダ如来様に誓う式が、浄土真宗の「初参式」なのです。



帰郷

AKB48

作詞：秋元康 作曲：上杉洋史

どこまでも続く 一本の道を 久しぶりに歩いてみよう
青空の下で 遠い山と田園とが 交わった辺りが 私の故郷（ふるさと）
夢を見に行ってた 都会（まち）の時間（とき）は早くて 思い出してる余裕がなかった

ああ ごめんね心配かけてたよね

母さんから貰っていた手紙にも返事さえ出せなくて

ああ ごめんね なんとか暮らしてたよ

窓の外を眺めながら何百回 弱音を吐いた

風のその匂い 川のせせらぎも すべてのも の なつかしくなる

生まれて育った この大地が 帰る場所と 今さらわかった 私の原点

夢はまだ見ている 人は 誰も旅人 知らない未来 行ってみたいだけ

ああ ありがとう 今日まで頑張れたよ

父さんから ふいの電話 厳しさとやさしさを無視してた

ああ ありがとう これからも頑張れる

どんな時も 味方だった ビルの隙間 故郷（ふるさと）の空

ああ しあわせ 明日からまた歩く 離れてても胸の奥にいつだってこの道は続いている

ああ しあわせ みんなに見守られてきつと今も一人じゃない 振り返れば故郷の空 振り返れば 故郷の空

